

専門科目と連携した情報活用教育

専門科目と連携した情報活用教育のための 授業設計・運営ガイド（文系）

公益財団法人 私立大学情報教育協会
情報教育研究委員会
情報リテラシー・情報倫理分科会
分野別情報教育分科会

名古屋学院大学 経済学部 児島完二



社会で求められる情報活用能力育成のガイドライン

到達目標	到達点1	到達点2	到達点3	到達点4
A 問題を発見し、目標を設定した上で解決に取り組む、情報通信技術を適切な活用して新しい価値の創造を目指して取り組むことができる。	問題発見・解決を思考する枠組みを説明できる。	枠組みを活用して与えられた問題解決に取り組むことができる。	答えが一つに定まらない問題に対して自ら問題発見・解決に取り組むことができる。	
B 情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して行動することができる。	発信者の意図を推測した上で、情報を読み取り、内容を説明できる。	社会の一員としての責任を理解し、他者に配慮して安全に情報を扱うことができる。	情報社会の光と影を理解し、望ましい情報社会の在り方について考察することができる。	
C 情報通信技術の現状と可能性を考察し、論理的思考に基づき、価値創造に向けて必要となるIoT、モデル化、データサイエンス、AIなどの知識・技能を活用できる。	情報通信技術の現状と将来的な可能性を説明できる。	仮説検証の手段として、論理的思考に基づいてモデル化とシミュレーションなどを通じて予測することができる。	データサイエンスやAIを適切に活用することができる。	社会における情報通信システムの在り方を考察することができる。



専門科目での情報活用教育の必要性

実社会で課題解決ができる人材

社会で求められる情報活用能力：課題発見・解決能力

専門科目での実践的な情報活用教育

大学在籍期間でのシームレスな活用経験

初年次での情報教育で取得する基礎的な知識・スキル

ネット世代の学生

情報関連の授業時間の減少



文系分野で求められる情報活用能力

1. 専門領域での**問題を発見・解決**できる能力
 - 枠組みを活用して与えられた問題解決に取り組むことができる。
(A2)
2. 専門領域の特徴や傾向を踏まえ正確な**情報を収集**する能力
 - 発信者の意図を推測した上で、情報を読み取り、内容を説明できる。
(B1)
3. 収集したデータ・資料を専門領域の分析手法で解析し、それらを問題解決に活用する能力
 - 仮説検証の手段として、論理的思考に基づいてモデル化とシミュレーションなどを通じて予測することができる。(C2)



社会で求められる情報活用能力育成のガイドライン

到達目標	到達点1	到達点2	到達点3	到達点4
A 問題を発見し、目標を設定した上で解決に取り組む、情報通信技術を適切な活用して新しい価値の創造を目指して取り組むことができる。	問題発見・解決を思考する枠組みを説明できる。	枠組みを活用して与えられた問題解決に取り組むことができる。	答えが一つに定まらない問題に対して自ら問題発見・解決に取り組むことができる。	
B 情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して行動することができる。	発信者の意図を推測した上で、情報を読み取り、内容を説明できる。	社会の一員としての責任を理解し、他者に配慮して安全に情報を扱うことができる。	情報社会の光と影を理解し、望ましい情報社会の在り方について考察することができる。	
C 情報通信技術の現状と可能性を考察し、論理的思考に基づき、価値創造に向けて必要となるIoT、モデル化、データサイエンス、AIなどの知識・技能を活用できる。	情報通信技術の現状と将来的な可能性を説明できる。	仮説検証の手段として、論理的思考に基づいてモデル化とシミュレーションなどを通じて予測することができる。	データサイエンスやAIを適切に活用することができる。	社会における情報通信システムの在り方を考察することができる。

実際に専門科目への導入に際して

- 「すべての専門科目で必ず導入」という必要はない
 - 学生の興味を引くであろう題材で**部分的**（3コマ程度）に**導入**
- 「情報活用能力獲得のための授業」を前面に押し出す必要はない
 - 文系でもデータ収集など、情報活用能力が必要な授業はある
 - それらの授業で、**情報活用能力の到達目標**を意識した構成へ
- 情報活用能力の到達目標・授業内容を教員間で共有
 - 各科目での情報活用能力の到達目標・授業内容をeシラバス・マップなどで可視化、学部教育の担当者間で共有
 - 各科目でループリックを利用



授業設計のポイント① 課題テーマ／目標

- 学生の興味を引くであろう身近な題材を選定
 - 文系（社会科学・人文科学）は多岐にわたる
 - マスコミで取り上げられる話題で、専門的な知見を加えると深みが出るテーマが望ましい

留意点

- オープンエンドに近いテーマが望ましい：答え探しの排除
- テーマに関する情報（データ）が検索・利用できる必要性
- 到達目標の明確化
 - 課題学修の到達目標を受講生に明示
 - 何がどこまでできるようになったかという項目・レベル
 - 評価基準（ルーブリック）



授業設計のポイント② 授業構成

- 同期的な（対面・オンライン）授業の大部分はグループワークなど、他者と協働し主体的な学修の場を目指す
- 事前学修
 - ある程度の参考資料を用意：PDF、ビデオクリップ
 - 負担は過剰にならない配慮
- 討論を併用：オンラインでのアプリ活用（Whiteboardなど）
- 状況に応じたミニレクチャーの導入
 - （オープンエンドなので）方向の是正、学生の理解度支援
- 評価：事後学修
 - 自己の振り返り＋相互評価（ピアレビュー）の導入
 - オンラインで第3者（外部）評価もあるとよい



モデル授業の題材からテーマへ：経済学の例

- 学生の興味を引くであろう題材
 - ベーシックインカム（給付金）
 - 5Gを巡る米中の主導権争い
 - インバウンドと観光産業
 - キャッシュレス社会の動向
 - IoTの拡大と物流・小売業の変化
 - 金融市場における仮想通貨
 - 労働生産性と働き方改革 など



**新型コロナによるテレワークの普及と今後の課題：
「働き方改革」と労働生産性から**



テーマに基づくコマ割りの例：3コマ

回数	テーマ・概要	主な到達目標（抜粋）
1	新型コロナによるテレワークの普及：現状と問題点	日本のテレワークの現状を調査するために信頼性・正確性に優れた情報を収集できる（B1） 過去からテレワーク（SOHOなど）の動きを調査して、普及しなかった原因を探求できる（A2） 現在のテレワークの動きを調査して、問題点や課題を指摘できる（A2）
2	労働生産性と「働き方改革」：日本社会の課題と政策プロセス	労働力人口を調査するために信頼性・正確性・専門性に優れたデータベースの基本的な使用方法を理解できる（B1） グループ内で議論するための素材として、統計データを適切な表現に加工できる（B2） 我が国の労働問題を理解するため、官公庁のホームページで「働き方改革」政策の概要を調査できる（B1） 労働生産性の向上策を検討し、労働政策との関連性を議論できる（A2）
3	コロナ後の労働環境：ネット時代の新しい働き方	「働き方改革」の流れから今日のテレワークをどのように位置づけるかを考察できる（A3） テレワークを推進する上での問題（企業・労働者）を発見し、関連データを活用しながら解決策を思考することができる（C2） 今後の働き方を先進事例などから予測できる（A2）



#02 「働き方改革」と労働生産性：日本社会の課題と政策プロセス

	項目	要点
	授業目標	狙い1：事前に適切なデータを収集・グラフ化してトレンドを理解する 狙い2：労働力人口・労働生産性など基本概念を議論に利用する 狙い3：経済政策の目的と運営を理解する
事前	自習教材や学修内容をLMS提示	労働力人口の定義を復習する 労働力人口や人口動態統計などの関連データを収集（官公庁ホームページ）し、適切なグラフ表現にする 労働生産性や「働き方改革」の概要を官公庁ホームページと新聞DBで調査して経済政策の内容を理解する
対面 遠隔	事前学修の確認 グループワーク1 ミニレクチャー1 グループワーク2 ミニレクチャー2 グループワーク3 全体への報告	LMSでの確認小テスト グループ内で各自が過去から将来への人口動態（少子高齢化）を説明する ミニレクチャー「人口減少社会と経済成長」 日本における労働力の現状を身近な話題（アルバイトや有効求人倍率など）から議論する 事前学修を基に、各自が働き方改革の概要を説明し、我が国における生産現場の問題点を指摘する。 ミニレクチャー「生産性と労働力：生産関数」 政府が進める経済政策を調査し、テレワークとの関連を議論する グループの意見をまとめ、発表する（2分×グループ数）
事後	整理・振り返り	ピア・レビュー：グループ学修を振り返り、自己とグループメンバーの貢献度を5段階評価でLMSに記載する グループで意見をレポートにまとめ、LMSから提出する

